

SUPER GT 第 6 戦、2 台の Nissan Z NISMO GT500 がポイントを獲得

— SUPER GT 2026 第 6 戦レースレポート —

9月20日 スポーツランドSUGO(宮城県)



2026 年 SUPER GT シリーズ第 6 戦が宮城県のスポーツランド SUGO で開催されました。台風が接近する不安定な天候でのレースで、最後尾からスタートした#24 リアライズコーポレーション Z(名取 鉄平 / 三宅 淳詞)が 7 位までジャンプアップ。#23 MOTUL Niterra Z(高星 明誠 / 佐々木 大樹)が 8 位で入賞しました。表彰台目前まで追い上げを見せた#12 TRS IMPUL with SDG Z(平峰 一貴 / ベルトラン・バゲット)は、マシントラブルでポイント圏外となりました。また、GT300 クラスでは、#56 リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ / 木村 偉織)が 2 位表彰台を獲得し、ランキング首位を維持しています。

2026 年シーズンは後半戦に入り、宮城県のスポーツランド SUGO で第 6 戦が行われました。#23 Z のレギュラードライバーの千代 勝正は、レースウィークの金曜日にサーキットで負傷して欠場となり、代わりにリザーブドライバーの佐々木 大樹を起用。シーズン後半、巻き返しを狙う日産/NISMO 陣営には、第 5 戦鈴鹿までの結果により、#23 Z に 44kg、#12 Z に 40kg、#24 Z に 22kg のサクセスウェイトが課されています。

【GT500】

#12 TRS IMPUL with SDG Z が Q2 進出を果たし予選 9 位

予選

予選日の 9 月 19 日午後 3 時 03 分から、天候は曇り、気温 23 度、路面温度 27 度のドライコンディションの下、Q1 が開始されました。

各車タイヤのウォームアップを行い、Z 勢は 4 周目にアタック。#12 Z のバゲットが 9 番手に、5 周目にもアタックを続けた#23 Z の高星はタイムアップを果たしたものの順位を上げることはできず、最終的に 12 番手で予選を終えています。午前中の公式練習でコントロールを失い、バリアに衝突したものの、懸命な修復作業により予選出走に間に合わせた#24 Z は、名取が 11 番手のタイムをマークしました。しかし、予選後にスキッドブロックの残厚不足により予選タイムが抹消。最後尾スタートとなりました。#12 Z は Q1 を突破し、Q2 進出を果たしています。

午後 3 時 41 分から GT500 クラスの Q2 がスタートしました。#12 Z の平峰は 4 周目にアタックを行い、9 番手で予選を終えています。Z 勢にとっては厳しい予選となりました。

最後尾から追い上げた#24 Z が 7 位、Z 勢は 2 台が入賞

決勝

9月20日決勝日、台風が接近し天候は朝から不安定ななか、午後1時30分、セミウェットコンディションのためレースはセーフティカー(SC)先導でのスタートとなりました。朝から時折雨が降り、コースはところどころウェットの状態、気温23度、路面温度25度のコンディションです。タイヤ選択が難しい状況のなか、Z勢は全車ドライタイヤを選択し、レーススタートに臨みました。

4周にわたるSC先導走行の後、戦いが始まりました。レース序盤、路面コンディションに対して慎重にレースを進めるZ勢は、それぞれポジションをキープして走行を重ねます。13周目、ペースを上げる#12 Zのバゲットがオーバーテイクを決めて8番手に上がると、17周目には7番手に浮上し、さらに前車との差を詰めてポジションアップを狙います。選択したタイヤが合わずペースに苦しむ#23 Zの高星は13番手、#24 Zの三宅は14番手を走行。メインストレートの上り坂でアクシデントが発生し、26周目にSCが導入されます。上位車のアクシデントにより、#12 Zは6番手、#23 Zは12番手、#24 Zは13番手となっています。

32周目にSC先導が解除されると、#12 Zと#24 Zはピットインし、ドライバー交代と給油、タイヤ交換を行いました。#23 Zもその翌周にピットインし、ルーティン作業を消化しています。ピットアウト後、ペースを上げた#12 Zの平峰は激しい上位争いに加わり、ポジションを上げていきます。#24 Zの名取もペースアップし、40周目にはポジションをふたつ上げることになりました。52周を終え、GT500クラスの全車がピットインを終えた時点で、#12 Zは4番手、#24 Zは11番手、#23 Zの佐々木は12番手を走行。#12 Zは3番手の背後に迫り、オーバーテイクを狙う展開が続きました。

しかし57周目、#12 Zは突然スロー走行となり、ピットに戻るとそのままレースを終えることとなります。ギヤにトラブルが発生し、変速ができない状態でした。これにより、#24 Zは9番手、#23 Zは10番手と2台が入賞圏内となり、レースは終盤戦となりました。

レース終盤、安定した走り続けるZ勢は、66周目に上位車がコースオフし#24 Zが8番手、#23 Zが9番手に浮上し、68周目には#24 Zがオーバーテイクを決めて7番手にポジションアップ。#23 Zも79周目にメインストレートでオーバーテイクを決めて8番手となります。そのポジションを守り切った#24 Zが7位、#23 Zが8位で84周のレースをフィニッシュしました。

予選で苦戦したNissan Z NISMO GT500勢は2台が入賞。シーズン終盤に向けて、日産/NISMO陣営は残り3レースでの必勝を期し、次戦の大分県オートポリスでの戦いに臨みます。

名取 鉄平 選手(#24 リアライズコーポレーション Z)

「三宅選手のステイントはタイヤが厳しそう印象でしたが、SCが入ったことでタイヤへの負荷も減り、ピットインのタイミングも良かったのではないかと思います。僕のステイントはペース良く走ることができ、ライバルとも悪くない戦いができたと思います。次戦のオートポリスは得意なサーキットのひとつです。今回のSUGOと同じように、タイヤライフとの戦いになると思いますので、予選・決勝でしっかりと切り替えながら戦っていききたいと思います」

三宅 淳詞 選手(#24 リアライズコーポレーション Z)

「タイムの抹消など、予選日はうまくいかない部分もありましたが、決勝レースは名取選手やチームの皆さんとうまく戦うことができました。ポイントも獲得できましたし、7位という結果は良かったと思います。今年のオートポリスはサクセスウェイトが半減しないため、各車の重量の違いが大きく出ると思うので、ウェイトの軽い僕たちにとって次戦はチャンスだと思います。このインターバルを使って、少しでも予選のパフォーマンスを上げられるように努力し、決勝の戦い方についてもしっかりミーティングを重ねて臨みたいです」

【GT300】

GT300クラスには4台のNissan GT-R NISMO GT3と、2台のGTA GT300規則のフェアレディZが参戦しました。予選19番手からスタートした#56 リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ / 木村偉織)がタイヤ無交換作戦で躍進し、98kgのサクセスウェイトにもかかわらず2位表彰台を獲得。ランキング首位を守り、後続とのポイント差を21に拡大しました。また、6位に#11 GAINER TANAX Z(富田 竜一郎 / 大木 一輝)が入賞し、2台の日産車がポイントを獲得しました。

【GT500決勝 結果】 84Laps

Pos	No	Machine	Driver	Time / Behind
1	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	塚越 広大 / 野村 勇斗	1:59' 13.559
2	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛 / サッシャ・フェネストラズ	4.729
3	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	山本 尚貴 / 牧野 任祐	5.236
7	24	リアライズコーポレーション Z	名取 鉄平 / 三宅 淳嗣	19.037
8	23	MOTUL Niterra Z	高星 明誠 / 佐々木 大樹	45.482
13	12	TRS IMPUL with SDG Z	平峰 一貴 / ベルTRAN・バゲット	26Laps

【GT300決勝 結果】 80Laps

Pos	No	Machine	Driver	Time / Behind
1	60	Syntium LMcorsa LC500 GT	吉本 大樹 / 河野 駿佑	1:59' 55.590
2	56	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ / 木村 偉織	6.104
3	61	SUBARU BRZ R&D SPORT	井口 卓人 / 山内 英輝	7.314
6	11	GAINER TANAX Z	富田 竜一郎 / 大木 一輝	37.104
18	360	RUNUP x SOL GT-R	荒川 麟 / 金丸 ユウ	1Lap
19	62	HELM MOTORSPORTS GT-R	平木 湧也 / 平木 玲次	1Lap
22	26	ANEST IWATA GAINER Z	安田 裕信 / リ・ジョンウ	1Lap
23	48	健康ケーズフロンティア WM ニルズ GT-R	藤原 大暉 / ジェームス・ブル	1Lap

以上